

タイトル:平成 27(2015)年度 研究セミナー(第 16 回)

日程:平成 27 年 12 月 18 日(金)~20 日(日)

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階 マルチメディアセミナー室(306)

「現代モロッコにおける擬似民主主義体制の形成と変容 —王政型権威主義体制の構造」

白谷 望 (上智大学大学院)

アジア・アフリカ言語文化研究所の先生方や事務局の方々には、2012 年に参加させて頂いたベイルート若手報告会でも大変お世話になった。その時は長期調査中であったモロッコからの参加であり、また「アラブの春」後のめまぐるしく政情が変化する状況にいたこともあり、私の報告も今思えば興奮気味なものであったように思う。そして今回「中東☆イスラーム研究セミナー」にて、博士論文構想という形でこれまでの研究成果をまとめたものを報告し、再度沢山のご指摘・助言を頂くことができ、本当にありがたく思っている。

私は「現代モロッコにおける擬似民主主義体制の形成と変容—王政型権威主義体制の構造」というタイトルで、博士論文全体の構想を発表させて頂いた。他の参加者の多くが、内容を絞り、深い議論をしている中で、博士論文全体を扱った私の報告は、1 時間という持ち時間でも散発的で駆け足になってしまった。そして質疑応答では、ある意味予想通りの厳しいコメントも沢山頂いた。ただ、それらの多くは自分では気付かなかった点であり、質疑応答の 1 時間と 3 日続けて行われた懇親会で、それらを解決する方法や考え方など、具体的なアドバイスをたっぷり頂戴することも出来た。

また、所属している研究室の大学院生の数がここ数年で減り、同じような状況で博士論文の執筆を目指している仲間が周りに多くないため、対象地域やディシプリンは異なっても博士論文の完成というプレッシャーを共有出来る参加者たちと色々と話すことができ、大きな刺激を受けた。

これから博士論文の執筆に取り組むわけだが、数々のご指摘の後に頂いた「でもここを修正したら博士論文書けるね!」というお言葉が、非常に励みとなっている。「ああでもない、こうでもない」と全体の構成を考え、それをまた練り直すという作業を繰り返し、博士論文としての執筆をいつから本格的に始めるべきか考えあぐねていた私にとって、そのお言葉は、とりあえず踏み出してみるという決断を後押ししてくれた。

改めて、このような貴重な機会を与えて下さったセミナー主催の関係者の皆さまに深く御礼申し上げます。どうもありがとうございました。